

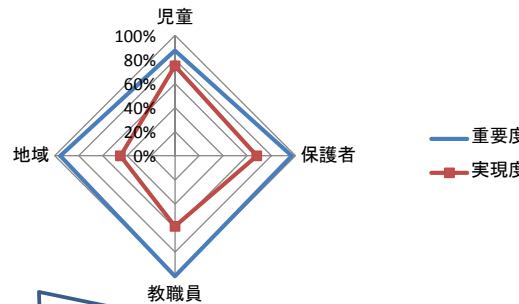
H26前期学校評価の結果を振り返って

京都市立久我の杜小学校

夏休み前に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフのポイントは、重要度「重要である」「やや重要である」、実現度「よくできている」「できている」を合わせたものです。

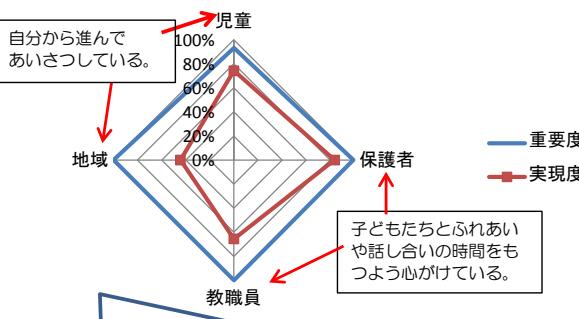
*地域の方に関しては、答えられる範囲で回答いただいたものを使用しています。

家庭学習は、毎日（学年×15分程度）できている。



家庭学習について大切であるととらえられている。家庭学習は時間のみでは判断できないが、学年ごとの目安として提示していく（京都市『自学自習のすすめ』）。また、時間内に早く終わる場合、自主勉強や読書の時間として利用していく声かけをする。

「あいさつ」に関する質問

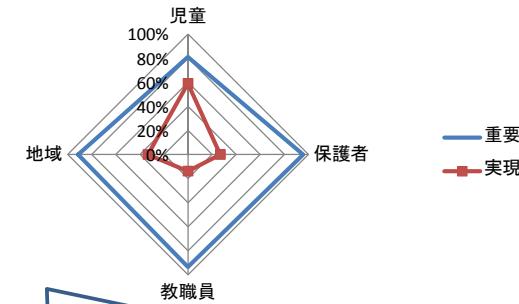


重要度について、児童も理解しており、関心が高い。しかしながら、「自分から進んであいさつすること」を大切と考えていない児童が7%いる。児童はたくさんの人と関わり生活していることを理解させたい。実現度から、あたたかいふれあいを大切にし、自らあいさつをしたくなるような環境づくりが必要である。

重要度の集計結果から

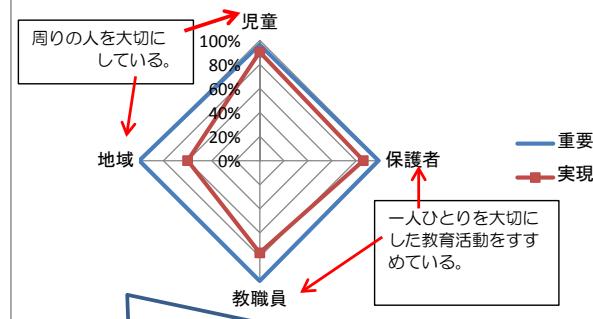
すべての項目について高い関心があることがわかります。また、ここでとりあげたアンケート項目以外の項目も含めて学校として大切にしているところですが、重要度の特に高いところは力を入れて取り組みを進めてほしい「願い」と受け取れます。これらの点について、地域・保護者の方の思いを共に子どもたちへの指導にいかしていきたいと思います。

授業以外で1日あたり20分程度、本を読んでいる。



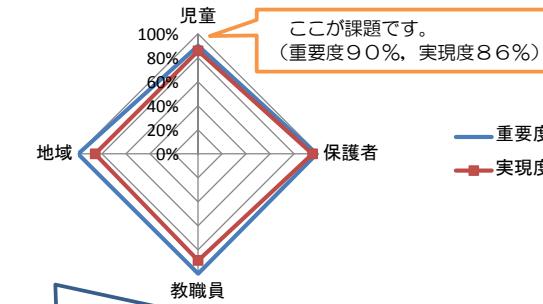
高い重要度をしめす一方で、実現度が低い。約60%の児童が休み時間や家庭など授業時間以外で1日あたり20分程度読書をしている。児童に読んだ本の内容についてたずねてみるとから読書の様子をつかむ必要性がある。あわせて図書室の積極的な利用を引き続きすすめていきたい。

「人を大切にすること」に関する質問



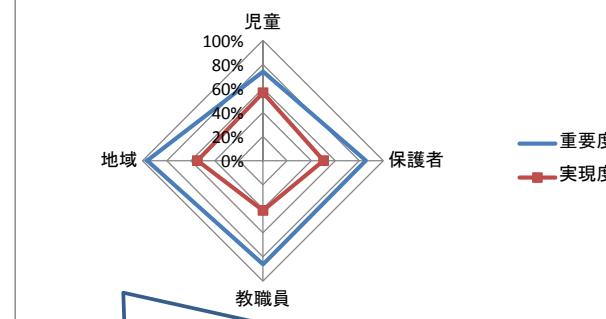
周りの人を大切にしようとはしている。地域のデータからみると、外でのあそび等の言動を見られての状況と思われる。教職員は一人ひとりの子どもに十分支援がしきれていないと厳しく振り返っている。その点からも、一人ひとりのかかわり方は今後も課題として取り組む。SSTの充実がさらにいい方向に導くと考えられる。

学校に行くことがたのしい。



児童は概ねたのしく通っている。一方で、「（あまり）重要ではない」と答えた児童が10%、「（あまり）できていない」と答えた児童が14%という結果を重く受け止めなければならない。学校が子どもにとって自分を発揮できる場所になるよう、すべての取り組みを進めていかなければならない。

地域やPTAの行事に参加している。



児童は習い事やスポーツの大会と日程が重なる現実がある。一方、夏祭りなど参加者が増えている行事もある。参加を促す声かけとともに、PTA・地域などたくさんの方に見守られ、お世話になって行事ができるということを伝える。

重要度と実現度の結果から

「重要度が高く、実現度も高い項目」は満足度が高いといえます。「重要度が高く、実現度が低い項目」は満足度が低く、「大切とは思っているが、実現は十分ではない」と考えられ、改善が見込めるところとなります。一方で、この「重要度と実現度の差」は、必要と感じている強さの表れであり、期待の込められているところとなります。実現度を高めていき、満足のある生活が送れるように取り組みを充実させ、子どもたちの姿の変容をめざします。

実現度の集計結果から

児童・保護者・教職員・地域の4者で実現度の異なる質問が多くみられました。このことは、一人ひとりの子どもたちをたくさんの大人の目でさまざまな視点から見て、育成しているととらえることができます。また、実現度が低い項目は「できていない」ではなく、どんなことが背景にあり、どのような状況にあるのかを把握することが最も大切であると思います。